

「発達障がいのある子どもへの具体的な支援」

上教大がフォーラムを開催

上越教育大学は去る十一月十二日、文部科学省大学生の就業力育成支援事業「人的交流を基軸とする活力ある教員養成」の取組として「インクルーシブ教育フォーラム」をリージョンプラザ上越で開催した。

同大は、本事業で教員養成カリキュラムにインクルーシブな教育を実現するための内容を取り入れ、学生に発達障がいのある児童生徒等のいる学級づくり、授業づくりや保護者コーディネーター、地域支援活動等が推進できる力をつけることに取り組んでいる。フォーラムは、上越市教育委員会と連携して開催され、会場はこの取組への関心の高さを示すように公立学校教員や学生等で満席となった。まず、佐藤芳徳副学長及び石野正彦教授がこれまでの取組を発表し、次に同大大学院臨床心理学コースの加藤哲文教授がコーディネーターとして基調提案を行った。続いて行われたパネルディスカッションは、小学校教諭、中学校教諭、特別支援学校教頭及び同大学院特別支援コース准教授をパネリストとして、発達障がいのある子どもたちが学校生活を送る中で、どのようなトラブルを抱えているのか、学校ではどのように対応しているのか、そして教育大学ではどのような支援をしているのかについて発表と意見交換を行い、インクルーシブ教育を学ぶ者にとっても有用。「インクルーシブ教育は障害のある子にとって有用だけでなく、障害の無い子にとっても有用。子供の頃から世の中には様々なハンディを伴って生まれた人がいることを自然のうちに理解することが大切。」などの意見が寄せられた。



加藤哲文教授の基調提案



満席となった会場



パネリストとの活発な意見交換